



ROTARIANS
UNITED IN SERVICE
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン
奉仕に結束
平和に献身



会長 吉野 勲 幹事 板垣広志 クラブ奉仕 高橋良士 職業奉仕 飯野準治 社会奉仕 佐藤元伸 国際奉仕 阿蘇司朗 青少年奉仕 菅原辰吉

出席報告：会員 81 名 出席 59 名 出席率 74.63% 前回出席率 82.09% 修正出席 76 名 確定出席率 97.01%

会 長 報 告

吉野 勲 君

1. 臨時理事会を本日午前11時30分より開催いたしました。兼ねてよりお話がありました例会場の変更と食事に関するアンケートの集計と云いますか、問題点を探りながら、いろいろ話し合いました。

会場につきましては、大多数の会員の方は産業会館5階に移してもらいたいとのこと意見でありましたので、原則として2月2日の例会より5階に移すことに決定いたします。

食事に関しましては、半数以上の会員の方よりなんらかのご不満のご意見がありましたので、私と幹事、皆川S A 委員長の三人で早坂社長と奥さんを混えて、十二分にクラブ会員のご意見を要望いたしました処、早坂社長より気配りのある回答がございました。この問題につきましては、前

前からお話があったもので、本年度だけではなく次年度も大事な問題でもありますので、よく善処して頂きたいものであります。

2. 1月17日、米沢市九里学園教育センターに於いて、午前9時より、1988年地区ロータリー情報セミナーが行われました。義務出席者に私も入って居ったのでありますが、所用のため欠席いたしました。幹事、市川輝雄エレクト、三井健情報委員長、矢部広報委員長さんには、朝早くから遠路の所でご出席を願い本当に有難うございました。勉強されてきたご報告の詳細につきましては、後程ご報告があります。

幹 事 報 告

重要事項なし

地 区 情 報 セ ミ ナ ー 報 告

第一グループ 市川輝雄君

地区の情報セミナーが1月17日、米沢市の九里学園において開催され、情報委員長の三井健さん、広報委員長の矢部晋さん、クラブ会長の代理として板垣広志さん、それに私と、4名出席してきましたのでご報告致します。

まだ暗い早朝5時半に出発しまして、名運転の板垣さんのおかげで8時半には会場に到着しました。

例年なれば、かなりの積雪が予想される所ですが、殆ど雪もなく、時折日のさす上天気で本当に助かりました。

地区情報セミナーは今回が初めての試みであり、会員にはもっとロータリーに関する知識を深めてほしい。一般社会にはもっとロータリーの存在を広報してほしい。というケラー R.I 会長の要請によるプ

ログラムであります。カウンセラーとして、第259地区のP.G津田進先生、リーダーとして田中善六P.G、斎藤利世P.G、九里茂三P.Gの諸先生が指導に当られました。出席したロータリアン約350名、又ホストクラブに、昨年新設されたばかりの米沢中央クラブが担当されているのに感心致しました。

志藤ガバナーの挨拶は、1月はR.Iにとって理解推進月間という特別な月である。一般社会にロータリーを理解してもらう為には、まず私達自身がロータリーで何をしているのか、ロータリーは一体何なのかをよく知る必要があると述べられ、「知識は力なり」繰返し共に学ぶことが大切と結ばれました。

又、チャールズ C ケラー R.I 会長のビデオでの挨拶が新しい情報化時代のセミナーのあり方を教えてくれました。

次に、第一回会議『ロータリー情報について』に

庄内空港の建設を推進しましょう

入り、津田カウンセラーがロータリーの歴史、理念そして親睦と奉仕の意義について触れられ、ポールハリスの生いたちから、なぜロータリークラブを作ろうと思ったかを説き、彼は「ロータリークラブは私の幻想が生んだ子供である」と言っているが、幻想を偉大な現実のものとした先駆者達の生き生きした魂を呼び戻すことが肝要である。80年続いたロータリーの歴史が、魂の抜け出た歴史であってはならない。死んだ児が母親の胸の中で幾度もよみがえるように、常に歴史をふり返り、基本理念を読み返して、彼等先人の魂を呼び戻そうではないか。と、熱っぽく話されました。

以上で私の分担した報告を終ります。

第二グループ 三井 健君

有意義な会合でありまして、話す事が一杯ありますが、時間の関係上、詳細は今日でなく2月7日に分区の新会員に対するロータリー情報の会がありますので、それには出来るだけ参加して戴きお話ししたいと存じます。その後、クラブのファイヤー・サイド・ミーティングを計画して居りますので、その節私の知る限りの話をし、責をはたしたいと思えます。ただ一つ、どうこうした会合がもたれたかと申しますと、私共内部にいる会員もロータリーの事を知らなすぎる。又、外部の人々は“ロータリーとは何ぞや”という疑門をもっており、それに適格な返事を出来ないのは情けないではないかという事で、情報セミナーとして情報委員会と広報委員会の勉強会が催された訳であります。今後、色々の機会にお話しをして参ります。

プログラム委員会

年 男 ス ピ ー 手

秋 野 昭 三 君

昭和3年辰年生れの秋野でございます。「60年で再び生まれた年の干支に還るからという」還暦を迎えました。

辰年とはどんな年なのか、私の誕生年からの年譜を繰って見ますと、

○昭和3年には、共産党員大量検挙とか満州某重大事件といわれる関東軍の謀略による張作霖爆死事件など、戦争の足音が聞こえてきていますが、11月に今上陛下のご即位の大礼が京都で行われてお

報告にもなりません、よろしく願います。

第三グループ 矢部 晋君

私、初めてロータリアンの方々の会合に出席させて頂き、大変触発されて帰って来たというか、そんな感じしております。前のお二人の方も述べられておりますが、外部広報をどうするかという事です。

地域にどのような形でロータリーを知らしめるかという事で、例えば郡山では7つのクラブがあり、それらの方々がロータリーの活動について合同会議を開いているという事でした。それもパソコンで外部新聞社との連繋を持っている等の話がありました。又、面白かったのは、新聞社を初めマスコミが方針として、通信部を含め66人もロータリーに加盟しているという事でした。山形としても今後どの様に広報活動を展開すべきなのか議論を呼ぶ事と思います。

国際青少年計画委員会

塚原初男君

先週の日曜日(17日)、第253地区のアメリカへの青少年派遣を希望する、第一回のオリエンテーションが山形のホテル・キャッスルで開催されまして、当クラブ推薦の石井君(羽黒高校1年)ご本人とお母さん(南高の石井先生です)、羽黒高校の英語の担任長南先生と行って参りました。

アメリカ地区の新穂委員(当クラブ会員)と委員長、副委員長の御3名の方に面接試問を受けて参りました。地区からは7名の希望者が居られました。

以上、報告します。

り、NHKの仙台放送局も6月に開局しています。
○昭和15年は、1月に静岡市大火があり5,121戸が焼失。9月北部仏印に進駐開始。11月には紀元2600年式典が皇居前で挙行されております。
○昭和27年は、私が学校を卒業して就職した年ではありますが、3月に十勝沖地震があり、4月には鳥取市大火で5,200戸が焼失という災害に見舞われましたが、4月に対日平和条約、日米安保条約が発効し、11月にはNHKの東京テレビ局実用化試験局が運用を開始し、テレビ時代の幕が開けられています。また、朝鮮動乱特需で景気の盛り上が

った年でもあったようです。

- 昭和39年は、6月16日に新潟大地震が発生し、この地域でも大きな被害を受けています。10月には東京オリンピックが開催され、大きな成功を収めました。
 - 昭和51年は、10月に酒田市に大火があり、1,774棟焼失と言う痛ましい災害がありました。また、ロッキード事件もこの年に発生しております。
- オリンピックは4年毎の開催なので、辰年はオリンピックの年でもあります。昭和15年を除いて、昭和3年アムステルダム、昭和27年ヘルシンキ、昭和39年東京、昭和51年モントリオールと開催され、今年はソウルとなっております。

以上振り返ってみますと、変革を伴う大きな事件、イベントが連なっており、波乱の多い年の様にも見えますが、吉凶いずれか俄かに判断のつきかねるところで、いずれこの年を「登竜門」とするか「ウダツの上がらない」年にするかは心がけ次第かと思えます。

「画竜点睛」という言葉を辞書で見ますと、昔中国の画家がお寺の壁画に白竜を描いて、その睛（ヒトミ）を書き込んだところ、風雲生じて白竜は忽ち天に上ったという故事から、事物の眼目となる所をいう。またそれによって事が完成する最後の仕上げをいうとなっております。

今年は何んとかこの眼目となることを欠かないで、良い仕事をしたいものだと思っておる次第です。

諸橋政横君

（前略） 私の生れた昭和3年5月13日の古い新聞を図書館で探してコピーして貰って来ました。私が生れた頃に何があったかと興味があったのです。その頃はちょうど山東第二次出兵の最中でありました。これはご存知の様に中国の革命軍が張作霖と戦った北伐の戦いです。関東軍を始め日本兵が5千人位山東半島に行って済南を占領したその頃であります。当時の鶴岡日報はこの事を「山東出兵に米国の世論が悪化した」とか「侵略の一步だ」とか「危惧されるは東洋大戦争だ」と、大変正確に書いてあります。新聞の力というものはずいものだと思います。これが昭和3年であります。それから満州事変が始まって支那事変があったのであります。

その頃の新聞は大変面白い事が多く、真面目な事ばかりでなく、風俗では大変興味ある事も多いのです。広告を見てもその頃の鶴岡の状況がよく判りま

す。その頃は鶴岡に鶴岡日報と庄内新報と二つの新聞があった様で、庄内日報はまだ生れて居りません。

私はこんな事を話して話を誤魔化そうと思ったのですが、私自身の事を申せば、私が鶴岡に参りましたのは昭和40年であります。辰年も何度も経験して居りますが、昭和3年は先程の様な事でした、その後は昭和15年であります。その頃は小学校の6年生です。中学の受験でバタバタしておりました。私はもともとあまり真面目な子供でありませんで、中学1年の時はHな漫画を教室中に廻して、職員会議で1週間の停学を受けたりもしました。その頃の中学の先輩に1級上に丸谷才一さんが居られます。同期には社会党の上田哲が居りました。サッカーなどやっておりました。私は陸上競技をやったり、その頃から邦楽をいたずらして、それは今でも続いて居ります。そんな事をして遊んでおりましたもので、旧制の高等学校2年から3年に行く時落第しまして、高等学校は4年もやっておりました。大学に行くにもドンキホーテみたいにとてもかなわぬ東大医学部を受験して落第、浪人して新潟医大に行ったという事です。新潟でも芸者遊びばかりして居り、待合から学校に通ったりしました。

医者になってから昭和37年に、山形の県立中央病院に行きました。ところが山形の内陸は私の性に合いませんでした。元々内陸文化と日本海文化は違うんで話が違う、物の考え方が違う、食物が違う…等等で私はどうも山形になじめませんでした。

やっぱり辰年で、何の気なしに新聞見てましたら昭和39年に大水が出てどこかがやられたとありました。何気なく読んでいくと、それは実は私が育ちました実家で、新潟の長岡の在だったのです。びっくりしまして飛んで行ったら全て流されて、夜具だけ残ったという事がありました。 （中略）

私の所は武家でして、鶴岡とは縁があるのです。実は戊申戦争で薩長と戦い賊軍になりました。そんな事で新潟とは文化圏も同じ、歴史的にも庄内とは親近感がある。そんな事で鶴岡は私の故郷の様な気がしております。そんな訳で鶴岡に骨を埋める事にしたのです。もう一つ鶴岡はいい所だなあと思った事は荘内病院時代、たまたまサーカスの小人(侏儒)の大手術を行った事があります。この人は北海道大学、弘前大学でサーカスはこわいという事と費用の事で断わられて荘内病院に来たのでした。私はこの事を市役所に話したら、心良く費用を持つという事で、当時としては無謀な手術をしました。その後大

変経過が良く本人にも感謝され、今でも年賀はがきの交際しております。これは鶴岡の大変良い点だったと思っております。

私はロータリアンとしては失格ですが、こんなことをして人間60年過ぎて参りますと、その人なりの歴史があります。今後どうなっていくか判りませんが、一生懸命やって行きたいと思っております。話が龍頭蛇尾になりました。それではこの辺で終了です。(拍手)

若生恒吉君

今までは大正5年、昭和3年の辰年の方々のスピーチでしたが、私が一番若い辰年生れのラストのスピーチとなりました。

私は皇紀2600年、1940年、昭和15年の辰年の春3月21日、西田川郡東郷村の天天堂、今の東田川郡三川町に生まれました。私の生れ年は閏年にあたり、誕生日は3年間は春分の日で、4年に一回は平日となり、今年はオリンピックの年なので平日です。

誕生の翌年が太平洋戦争になり、小学校に入学時は新制の教育方針に変わったのでした。高校卒業の頃は所得倍増の始めであり、大変良き時代、青春を過ごす事が出来ました。

今年で4回目の年男になる訳ですが、数年49才なので厄年でもありますので、心中穏やかではありません。去年はやさしくかわいいイメージの卯年であったが、経済的には歴史上に残る大変な年でもあったと思います。去年のウと今年のタツを続けると、「ウタツ」となり、「ウダツ」の上らない年になるか、又は昇り竜の辰年になるのか予想も出来ませんが、「恐竜」の辰年にはさせたくはありませんね、私は辰年ですから。

R.Cに入って6年になり、去年は新クラブ拡大委員としてキーマンメンバーを募り、やっとの思いで今年4月17日に認証状伝達式が行われます。又、発足当時から倍近い40人の会員に増えています。大変結構なことだと思います。

7月からは市川会長の元で幹事という責任重大な任務に就任の予定ですが、これ又大変な年で、30周年はあり、分区のIGFあり、又ガバナーが太平洋側のいわき平という遠い所で会議や年次大会等が行われる訳ですので、この重大な年度の幹事として責任が果せるか心配でなりません。ウダツの上らない年になってはと…。しかし幸いにして市川さん始め高橋さん、佐藤昇さん、そして分区代理の新穂さん達の大先輩の中なので、安心して幹事職を務めたいと思っております。市川さんや会員の皆さんの足手

まといにならない様がんばります。今から吉野会長板垣幹事から教育されておりますので。

今年は我々の業種も厳しい環境です、又、厄年でもあり、又、ロータリーの幹事にあたり、大変な年になる様です。ウダツの上らない辰年になるか、昇り竜の辰年になるか…私にとってはこの年男スピーチが正に登竜門になる訳です。

今年は皆様にとって良い年であることを御祈念申し上げ、又私に対して皆様からの御指導御協力を重ねてお願い申し上げて、私のスピーチとします。

飯野準治君

1年はたちまちのうちに過ぎ去り、年は明けて昭和63年「辰」年を迎えました。

「辰」(竜)についての話をしますと、川端龍子の天井画の龍には登り龍と同じく、雲と共に下らんとする下り龍とあるそうです。龍は農耕に大切な雨を降らせる神であり、又、航海の無事を祈る神だそうです。十二支のうち「辰」だけがこの世に存在しない霊物です。物質時代は終り、これからの時代は「心」の時代と言われますが、龍神様にお願いしまして、農耕だけでなく乾燥しきって殺伐とした現代社会の人々の心にも雨を降らせてもらい、今年1年の無事をお願いしたいものです。

還暦の年頭にあたり改めて思います事は、青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのではないかと。優れた創造力、たくまじき意思、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心等をいい、年を重ねただけでは人は老いないと。若者に負けずこれから益々何事にも意欲的にトライして、辰年にちなんだ躍動の年にしたいものです。

スマイル

- 佐々木喆彦君 “三尺下って”という随筆集をようやく出版する事になりました。皆様多数の方々のご協力をお願いします。会場申込は送料無料です。
- 吉野 勲君 地区の義務出席会合に参加出来ませんでした。スマイル致します。
- 藤川 享胤君 父親が戴いた年賀はがきの番号で一等が当たりました。
- 津田 晋介君 先週火曜日から、今シーズン初めてスキーに行ってきた。以前骨折したので恐る恐るでしたが、何の事もなかったので大変うれしかったです。